

おおねち 大根地山

—— 自然景観と信仰の山 ——

筑紫野市の北東部に、山すそを広げた海拔652メートルの大根地山があります。

この山の山頂には大根地神社・稲荷大明神が祭られ、昔から信仰の山として崇められてきましたが、最近は登山路が整備されたことにより森林の散策と頂上からの展望を求めるハイカーの手頃な山となって賑わいをみせています。



▲ 登山路
照葉樹の林と登山路

この山の一部分にはシイノキ・カシノキ・タブ・ヤブツバキなど常緑樹からなる照葉樹林が残されていて筑紫の郷土樹種からなる自然林の状態がそのまま見られる感じです。

なかでもヤブツバキ・アカガシの大木が群生状にある林相は都市近郊の山では大変珍しく学術的にも価値のある貴重な森林です。3～4月にかけてはヤブツバキの赤い花とこれに群がる小鳥のさえずりが楽しめます。

また、8合目付近の谷筋にある奥の院神社は名水とも言える岩清水が出ており、この一帯の森林はイロハカエデ・イヌシデ・アカメガシワなどの落葉高木林で春の新緑、夏の緑陰、秋の紅葉と色とりどりに季節ごとに林相が変化します。清水でのどを潤し思わず足を止めたくなる所です。



▲ ヤブツバキの花



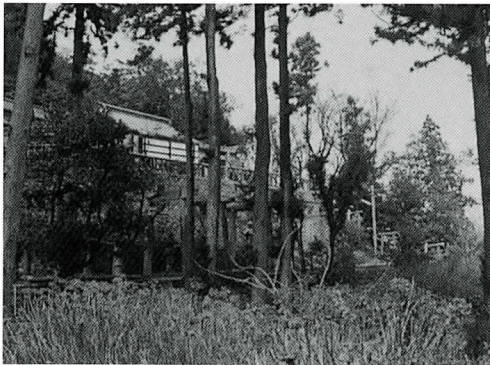
◀ 奥の院の紅葉



▲ 苔むした参道

大根地神社に参拝、この神社の由来によれば、神功皇后が大根地大神を祭り祈願されたといわれ、また稲荷神社もあって昔から大根地大明神、大根地稲荷と崇められて五穀豊穡・商売繁盛・招福除災など諸祈願達成の参拝が行われた由緒ある神社です。

この一帯は、稲荷特有の朱色の鳥居が緑をたたえた杉木立の中に並び、神域を醸し出しています。



▲ 大根地神社

大根地神社の林を抜けると視野が開け、リョウブ・エゴノキなどの落葉灌木が散生する原野状の山が頂上に向かって広がってきます。

海拔652メートルの頂上からは、筑後・筑豊の町や田園風景、目の前には宝満・三郡山がせまり、また、はるかかなたに山並が展望できます。

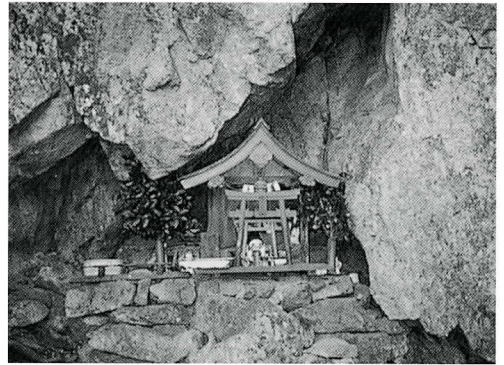
ここからの景観は登山の疲れをしばし忘れてしまうほどです。

大根地山への登山は、国道200号線の筑前山家・飯塚間の冷水峠付近からの表参道と県道二日市・筑穂間の本道寺からのコースがあります。

登山路は車道の部分もありますが、コースはいずれも九州自然歩道になっており、登るほどに森林に浸り、岩場の稲荷神社、朱色の鳥居、またはコケむした石の鳥居、燈籠を通して頂上に達するわけです。

このように大根地山は祈願、森林浴、自然観察、ハイキングなどに適した条件を備えた山です。

(斉城 巧)



▲ 稲荷神社



▲ 大根地山頂上付近



▲ 山頂付近からのながめ